

## 第2回福岡市食育推進会議議事録（要旨）

1 **開催日時** 平成18年11月10日（金曜日） 10時～11時30分

2 **開催場所** 福岡市職員研修センター 402研修室

### 3 会議次第

- |                          |
|--------------------------|
| 1 開会                     |
| 2 委員紹介                   |
| 3 議題<br>福岡市食育推進計画（案）について |
| 4 その他                    |
| 5 閉会                     |

4 **出席委員** 福岡市食育推進会議委員 18名  
欠席委員：山崎広太郎委員長，三原修委員，宮崎良春委員，城田知子委員，倉光一雄委員，横町俊一委員，松村正秋委員，坂根康秀委員，植木とみ子委員

### 5 報道機関取材者及び傍聴者

報道機関：無，傍聴者：無

### 6 議事概要

- |     |   |
|-----|---|
| 議題  | 福岡市食育推進計画（案）について<br>福岡市食育推進計画（案）についての説明 |
| その他 | 今後のスケジュールについて<br>スケジュールに沿って説明           |

### （意見）

- |    |  |
|----|--|
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"><li>・この計画案は，短い間によくここまでまとめられたと思う。気になる点が二点ある。この推進会議のメンバーの中に若い世代が活用するであろうフードビジネス関連（飲食業，スーパー，コンビニ等）の方がメンバーに入っていない。食環境づくりには，食物へのアプローチと情報へのアプローチがあるが，この計画案では，情報へのアプローチはたくさん出ているが，食物へのアプローチがあまりない。<br/>30ページ食育推進運動の展開の関係団体については食品関連事業者，流通の中にスーパー，コンビニが入っているが，週末家族が集うようなレストラン等が抜けているのではないか。食育推進運動に一番インパクトがあると思われる所での展開があればいいと思うが，それはどこに位置付けられているのか。</li><li>・もう一点は，高校生や若者に対するアプローチが弱いのではないかということ。<br/>3ページの朝食摂取状況の資料では，高校生の4人に1人が食べておらず，20歳代男性では3人に1人しか食べていない。小学校・中学校では栄養教諭が位置付けられているので教育現場での食育が可能だが，高校生以降，一人暮らしなどを始めると朝食をとらず食生活も乱れてくる。コンビニでアルバイトなどをする若者に，食事バランスガイド配布のための教育をするなど，食意識がもっとも低い年代にももう少しメスがいれば効果が上がるのではないか。</li></ul> |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"><li>・19～20ページについて，健康づくり財団での経験をふまえれば，幼児期などは「ごっこ遊び」等で食に関心を持つことができる。幼児の段階で計画に入れたらどうか。</li></ul>   |

3歳児以降の幼児や学童期では、料理も参加することで興味を持つのではないかと  
いう風に拝見した。

- ・学校とか保育園とかは、食に関しては専門家と素人の両方が必要なのではないかと  
思われる。食事に関しては、素人は、詳しい知識を発信することがなかなかできな  
いので、栄養士会等も参加をして一緒にやってもらうことが大切と考える。

委員

- ・未就学児は保育園が32%、あと、幼稚園があるが、家庭におられる方が多い。  
施設にきている子どもたちは施設から保護者に支援できるが、施設にきていない子  
どもは地域での指導が大切と考える。
- ・20歳代の食の状況が悪いが、福岡市の特徴に4つの視点に述べられているが入れら  
れているが、20代の対策が弱いのではないかと。学校・保育所の中に大学生も入れて  
推進していくのはどうか。  
主体がどこがやるのかを明確にしていかなければいけないのではないかと。  
高校と書いてあるのは県立・市立・私立等があるが、すべてを含めたイメージなのか。  
どの範囲をターゲットとするのか。

委員

- ・保育所の問題が出てくるが、完璧な案ができていると思う。福岡市の保育園は昭和  
23年に最低基準ができていたが、給食室は必置となっており、長年苦勞してきてい  
る。保育園では命の大切さを給食の時間に食事を通して常に教えている。最近問題  
になっていることは、この内容から離れるかもしれないが、「いただきます」と言っ  
てはいけないと言う保護者がいる。理由は一宗一派に偏するというところだそうであ  
る。命を大切にとっているが教育の現場でそういう問題がある。また、食材につ  
いては地域の人々の応援を得なければいけない。地域との関連の中で、新鮮でやすい  
食材を提供いただくよう地域の材料店お願いしているところである。  
「早寝・早起き・朝ごはん」も各保育園で実践している。実践した結果、だいぶ効  
果があっているようで、この運動を実践すれば効果がでると確信する。今後も、こ  
の計画の施策を推進していただくことには賛成するし、今後も進めていただくこと  
はありがたいと思う。

委員

以上の意見について事務局から回答をしていただきたい。

事務局

- ・外食流通業界についての取り組みへのご指摘については、17ページに書いているが、  
外食流通業界と地域における食育のネットワーク作りというところでの連携につい  
ては、実際現在行っていることは、地域では飲食店等における「外食栄養成分表示  
の店」事業を昨年9月に開始したところで、これを推進しているところである。コ  
ンビニやスーパーとの連携についてはそれぞれの所での取り組みはなされていると  
ころもあるが、行政との連携については今後の課題としてネットワークの構築、情  
報発信を積極的に推進していかなければならないと考えている。
- ・小学生など自分で作って自分で参加していくことが必要ではということについては、  
地域で行っている17ページに書いているように、公民館主催で行っている家庭学級  
や、乳幼児ふれあい教室、地域で行っている親と子の料理教室などの中で小学生が  
参加しての取り組みを行っている。
- ・未就学児の指摘については、保育所に通っている幼児は32%ということでその他の  
家庭にいる子どもは地域が主体になってくると考えている。地域での未就学児への  
取り組みについては、16ページの子ども期で述べたように、各区の保健福祉セン  
ターの乳幼児健診や離乳食教室、親と子の料理教室、公民館の家庭学級等において、  
食の大切さ、特に朝食の摂取について保護者に働きかけていく等取り組みを充実拡  
充していかなければならないと考えている。
- ・20代への取り組みが弱いのではないかとという指摘については、検討部会でも、具体  
的にはどのようなことをするのかとどのような質問をもらったが、20代は難しいと

ころと考えていて、18ページでの学生自身がボランティアとして参加する、大学との連携では、福岡女子大学や、中村学園大学等では実際に食育の取り組みを行ってもらっているが、他の大学や専門学校への広がりができていないので、その部分に関してはネットワークの構築を図って、自主的に食の情報発信を立ちあげていただくとともに、福岡市としても、食の情報発信を立ちあげて若者が活用しやすいような情報発信のしかたを大学等と連携しながら進めていきたいと考えている。

- 委員
- ・若者は朝食を食べましたかときくと食べていないが、夜食をたべていて3食となっている。本当は望ましくないが、3食にはなっている。
  - ・大学や専門学校等の推進は、行政機関といかに連携をとって行くかが重要という気がする。
  - ・日本人は食費に80兆円を使っている、その30%が外食産業であると言われている。外食産業との連携をすることが大切である。30頁にも記載されているが。

- 委員
- ・25~26ページの食文化に関して、郷土料理については、本当の郷土料理は調理師会では正確に作ることはできない。ご年配の方、郷土料理を専攻されている方に依頼した方がよいと思う。地域地域の味や作り方があるので数字で表すことができない。  
食文化についても、国を含めて怠っていると思う。食事のマナーや食文化についても、きちんと教えていかなければならない。地域で行われる親子料理教室、その他の料理教室等においては、包丁やまな板など道具の文化も教えてほしい。  
26ページの調理師会との連携については、郷土料理は専門の調理師も知ってはいるが、地域の年配の人などに頼むとかの方法がよいと思う・・・  
マナーについても、いただきますと言うことはどのようなことなのかも教えてほしい。  
伝統食を作るときにも保存方法なども併せて教えてほしい。

- 委員
- ・食生活改善推進員・協議会とはどのような人か？現在836人の人がいるということであるが、校区毎に配置されているのか。  
これを1,200人にと言うことですが、校区に増やすのか、全体で増やすのか伺いたい。  
このような食育推進会議にどうしておられないのか。

- 事務局
- ・食生活改善推進員については、31ページの用語集につけている。食生活改善推進員養成教室を各保健福祉センターで毎年開催しているが、ここを受講した人が、食生活改善を目的に地域において「私たちの健康は私たちの手で」をスローガンにボランティア活動をする人たちで構成されており、現在836名である。この会員が食生活改善推進員協議会を構成しており、この組織は全国組織で、福岡県、福岡市で活動をしている。実際には、校区毎に養成という形ではなく、希望した人が保健福祉センターの講座を受講し、ボランティアとして地域で活動しますと手を挙げた方が協議会に入るということになっているので、食育を進める上で、養成教室を積極的に受講していただいて、協議会に入ってもらっていただくことを各学区で積極的に進めていきたいと考えている。

- 委員
- ・食生活改善推進員協議会は現場をよく知っていただいているということで実際には検討部会に参加してもらっている。  
研修を受けて地域の専門の方と素人の方をつなぐのが食生活改善推進員だと思っているが、位置づけをもう少しきちんとしなければならぬと考えている。単なるサークルにしてしまっただけではいけない。社会貢献・地域貢献をしていただきたいと考えているが、学校などとの連携などを考えても、例えば学校には入りにくいと言う

- ことを聞いている。
- ・公民館などのサークル活動ではなく、校区の活動をする場合も、区役所の体制もしっかりしなければいけないと考えている。
  - ・もう一つのお願いは2ページの所管局に本庁だけでなく食進会とか区役所の活動を入れてほしい。
  - ・16ページについて、子ども期にこころの発達だけでなく、食事が学業にも影響するというので、知育も書き加えたらどうか。
- 委員
- ・この食育の会議がもたれたことで、大変感謝している。農林水産と学校現場との連携の動きが広がってきたと考えている。農林水産まつりにおいても、学校現場の方がでてきて、箸の持ち方などを教えるコーナーを設置することとしている。
- 委員
- ・食育というものが私たち人間を形成するうえで大切であるかということで計画されていることであるが、計画が立派にできていると思う。しかし何らかの形で接する人はいいのだが、全ての人が接するわけではないので、若いお母さんや、20代の若い人や、学校を卒業したひとを対象にインターネットで分かりやすい方法で情報を発信していただいて活用した推進を入れてほしい。
- 委員
- ・市内に144公民館があるが、料理教室はおとしよりの多い。今後、公民館もどう食育に関して動こうかと考えているところである。  
 中学1年生との座談会で朝食をきくと24人中11名たべていない。理由を聞くと、母親が起きていない、作ってくれないということである。館長さんたちの話の中で、親子で集まりましょうと言っても集まらないのが現状である。  
 週5日制のなかで、公民館では自分で朝ごはんを作るという講習会を小学生・中学生に進める方向ではなしを進めている。手始めに自分たちで作って食べれるよということを私どもの公民館では1月か2月にそのような講座を始めたいと思っている。20歳代の人に朝食を食べましょうと言っても間に合わない。  
 手始めに自分の公民館から始めたいと考えている。
- 委員
- ・貴重な意見をありがとうございました。本日の意見を取り入れて修正案をまとめる。
- 事務局
- また、本日欠席の委員の意見も伺った上で、取りまとめたいと考えている。  
 委員には、パブリック・コメントにかける前に事務局の方から送付する。  
 修正案は12月の1日から1ヶ月間パブリック・コメントにかける予定。